

患話休題

かんわきゅうだい



院長 真崎 雅和



舌が痛い

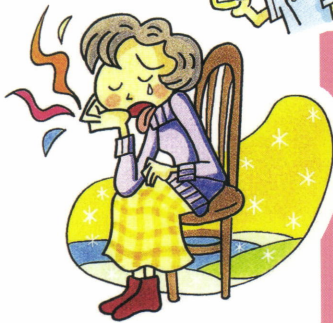
舌が痛いといえるのに、何度眺めても舌にその原因となるような物が見つからないことがよくあります。原因のわからない舌の痛み[㊦]舌痛症と呼びます。

舌痛症には次のような特徴があります。

- 中年女性に多い
- 熱いものを食べてやけどをしたときのような痛み(灼熱感)
- 朝方はいいが、日中次第に痛みがひどくなる
- 会話や食事の時は痛みが治まる、など。

従来は原因不明なので心因性とされる場合がほとんどでした。うつと関係しているとの報告も多く、抗うつ剤で改善するという報告も多くなりましたが、それだけですべてが解決したわけではありませんでした。

舌の表面の感覚神経には、顔面や口腔の痛みを感じる知覚神経である三叉神経と、味覚を感じ取る鼓索神経(顔面神経の一部)があります。単純には三叉神経の障害による場合が考えられます。味覚異常を伴う場合は、鼓索神経がかかわっていると考えられます。生体の神経機構というのは互いにネットワークを形成し、刺激側と抑制側がバランスを保って調整されています。味覚の場合を考えてみましょう。ある味覚物質が舌を刺激すると、味覚(鼓索神経と痛覚(三叉神経))の両方が刺激されますが、これを痛いと感じることは通常はありません。味覚が刺激



されたとき、三叉神経の作動を抑えるように働くからです。ということは、鼓索神経の調子が悪くなると三叉神経を抑制できず痛みを感じるのではないかと考えられます。

もう一つ最近知られるようになったのは慢性疼痛の生理です。神経というのは常に自発放電という一定の活動をしています。これを通常感じられないのは、脳(中枢)からこれを抑え込む神経が働いているからです。一定のリズムから逸脱した刺激だけを感じるようになっていくわけです。この中枢からの抑制作用が狂うと、常に痛みを感じる慢性疼痛になります。慢性疼痛で有名なのは「帯状疱疹」後の疼痛で、水泡が消えても長く痛みが残ります。これらの慢性疼痛を改善する薬が使われるようになってきて、舌痛症にも効果が期待されるようになります。興味深いのは、この中枢抑制障害は「うつ」を引き起こす原因とも関連しているという点。抗うつ剤で効果があったのはこのためかもしれません。



急患 随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	休診

真崎耳鼻咽喉科医院

TEL.018-845-0234 FAX.018-847-1321 秋田市土崎港中央6-8-3